

麦づくり情報(No.2)



1. 麦作況情報田の生育概況(2月8日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	概況
牛津	サチホゴールデン 4条播き	本年値	12/7	7.6 (74)	426 (110)	4.5 (+0.2)	草丈は平年より低い。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年並。
		平年値	12/10	10.3	387	4.3	
大和	シロガネコムギ 6条播き	本年値	11/20	12.9 (104)	921 (184)	6.5 (+1.5)	草丈は平年と同等。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年に比べやや早い。
		平年値	11/29	12.4	501	5.0	

参考 農試作況データ(2月10日調査)

品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	概況
サチホゴールデン	本年値	12/10	9.9 (77)	492 (90)	4.1 (-0.3)	草丈は平年より低い。 茎数は平年よりやや少ない。 葉令からみた生育は平年並。
	平年値	12/10	12.9	546	4.4	
シロガネコムギ	本年値	11/19	19.4 (93)	636 (92)	5.8 (-0.3)	草丈は平年よりやや低い。 茎数は平年よりやや少ない。 葉令からみた生育は平年並。
	平年値	11/20	20.9	693	6.1	

気象概況

平均気温は平年比+1.7℃と高く推移した。1月23日に40mmの降雨があったが、その後はほとんど降雨がなく乾燥傾向で推移している。日照時間は平年の102%と平年並みであった。

生育概況

○11月中旬播種の小麦は現在6~7葉期となっており、幼穂形成期を迎えている。分けつが発生も旺盛で平年よりも早い生育となっており、11月中旬播きでは現在節間長1~2mm、幼穂長0.5~1mmとなっている。

○12月上旬播種の大麦は現在4~5葉期となっており、初期生育が少雨・乾燥で遅れたものの生育は回復し、現在は平年並みとなっている。

○圃場によっては、やや葉色が淡い圃場があるが、乾燥により肥料吸収が抑制されていると思われる。

病害虫発生状況

◆網斑病…大麦の一部圃場で発生が確認されている。

2. 今後の管理

○追肥

葉色が淡くても既に追肥をしている圃場での追加はしない。

○穂肥施用について

11月中旬播種の小麦は、平年より生育が早いため、穂肥の施用にあたっては暦（2月下旬～3月上旬）を参考に遅れないように施用する。茎立期（右図の時期、別添：小麦出穂期予測を参考）を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

◎肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

○麦踏み・土入れ

<麦踏み>

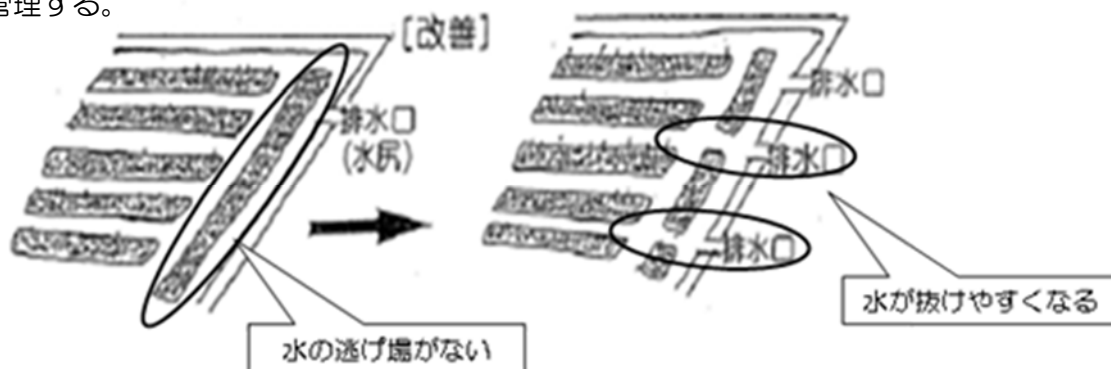
- 茎立期を迎えた圃場では、初期分けつ茎が折れ、穂数の減少や倒伏抵抗力が低下することがあるため実施しない。
- 土壌が湿潤な状態で行うと、土が締まることで通気性が低下し、根の活性を阻害するため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。
- 麦踏みの最終時期は節間伸長開始期～茎立期まで（草丈25cm程度）
※節間伸長開始期…節間長が5mm以上に達した時期
茎立期…節間長が20mmに達した時期。

<土入れ>

- 本葉5～6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- 出芽遅れなどにより生育が遅れている圃場は、生育が進んでから行う。
- 土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
- 肥効を高めるため、穂肥後に行うと効果的である。

○排水対策

生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないように、管理する。

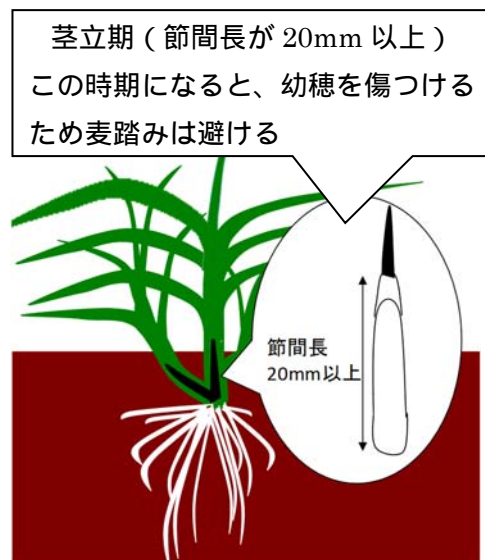


○病害虫防除

◆網斑病

網斑病の発生が確認されている圃場では、症状の進展具合を確認し適期防除を行う。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布



○雑草対策

徐々に播種後除草剤の効果が薄れ、雑草の発生が目立つようになってきている。雑草の発生が目立つ圃場では、除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 双マテホウ 加ノグサ	5~10g	100L	は種後~節間伸長前 (双マテホウ5葉期まで) (加ノグサ1~3葉期まで) ※小麦のみ は種後~穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・加ノグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期) (広葉発生揃~6葉期、ヤエムグラ4葉期まで)	2回以内	・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50~100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期(雑草3~6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

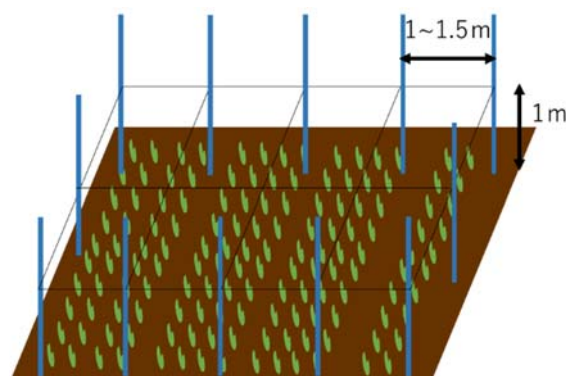
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける

○鳥獣害対策

- ・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ(1~1.5m)の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

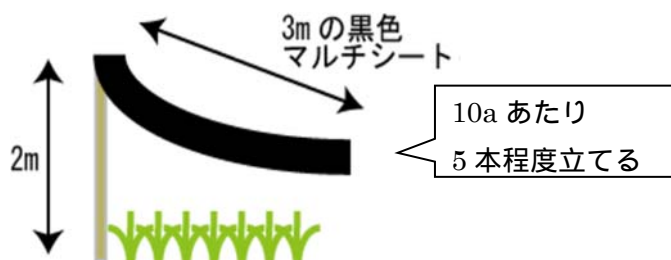


・カモ

本年はカモによる食害が各地で多く見られる。特にクリーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。

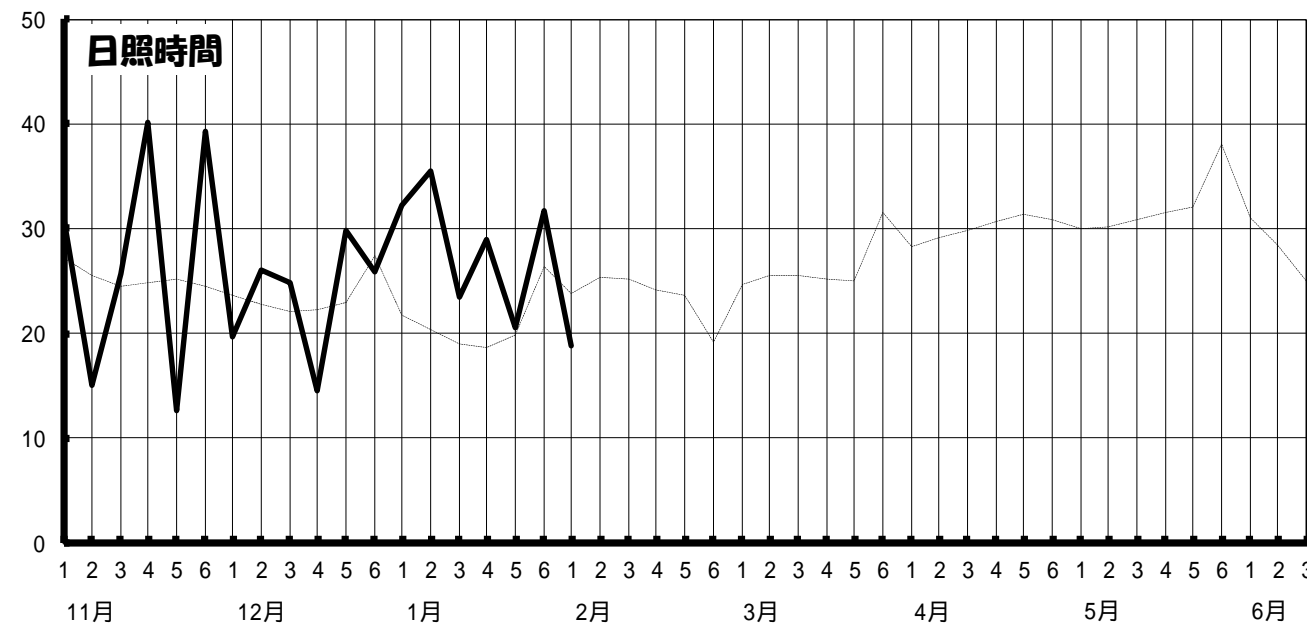
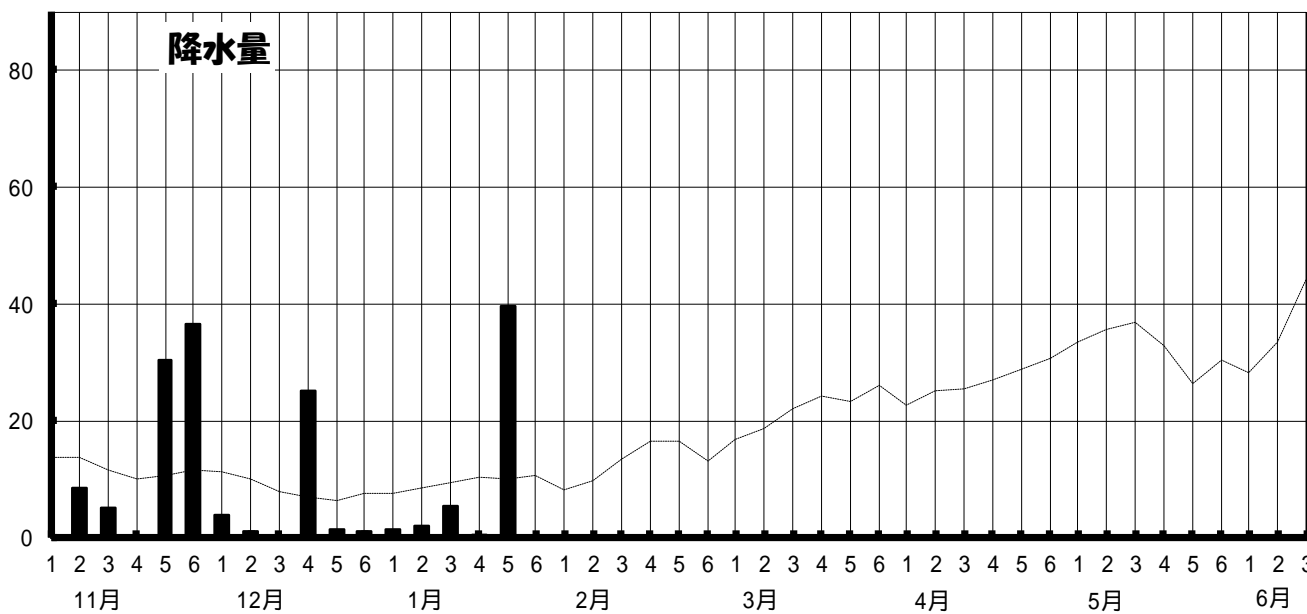
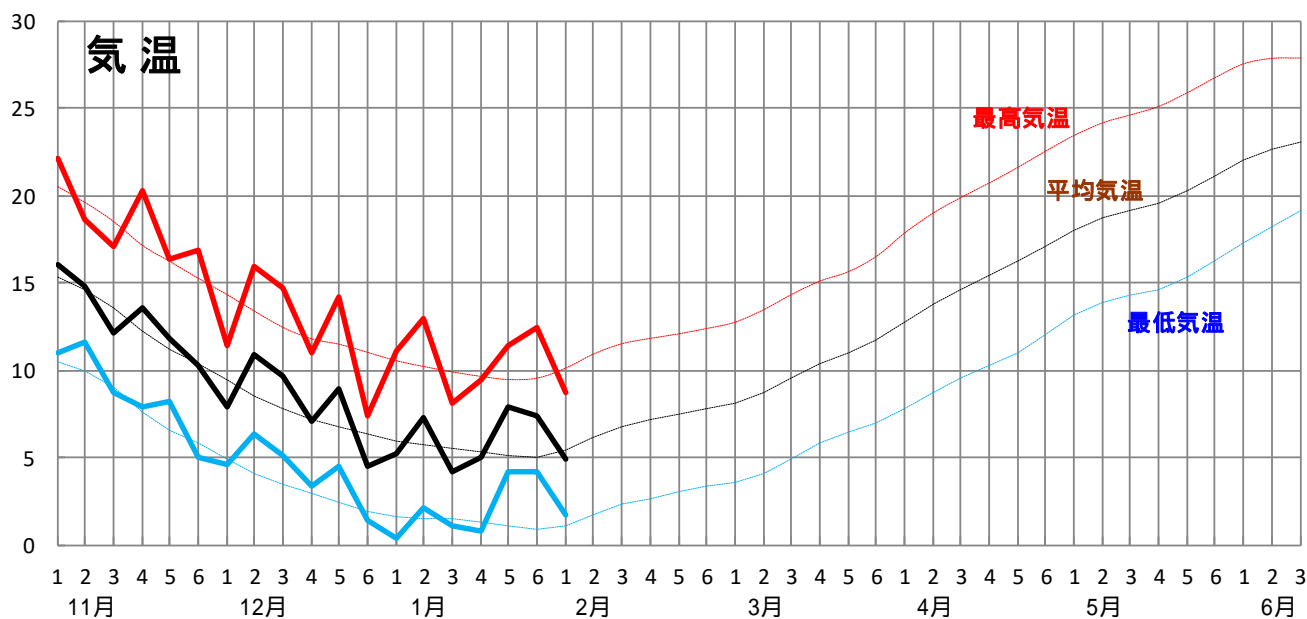


カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

令和4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値